

第8節 家 庭

第1 指導計画の作成

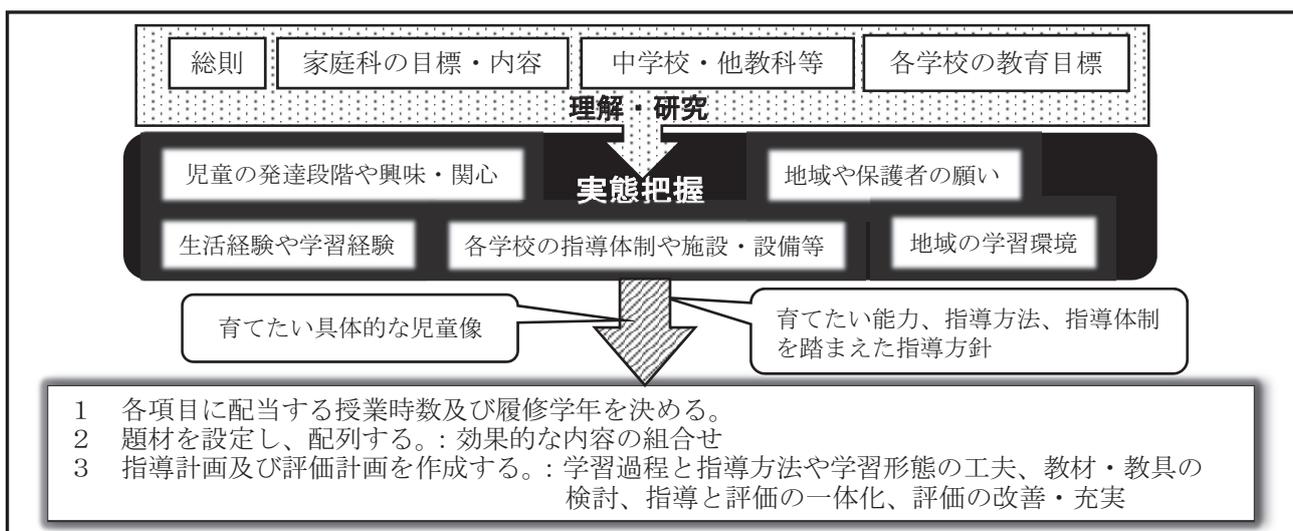
1 指導計画作成の基本的な考え方

学習指導要領の目標を踏まえて、2学年にわたって学習する内容を「A家族・家庭生活」「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」で示しているが、これらは指導の順序や三つの内容別に指導を示しているものではない。

指導に当たっては、各内容の各項目の指導の順序を工夫し、各指導事項ア、イとの関連を図って題材を構成し、効果的な学習指導ができるよう年間計画を作成する。

2 指導計画作成の一般的な手順

2学年間を見通した全体的な指導計画の作成に当たっては、次のような手順が考えられる。



3 指導計画作成に当たっての留意すべき事項

- (1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点（解P70、71）
個々の児童によって、学習活動を行う場合に生じる困難さが異なることに留意し、困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫する。その際、児童の学習負担や心理面にも配慮する。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点（解P67、68）
題材などの内容や時間のまとまりの中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。その際、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識と生活経験等と関連付けて深く理解するとともに、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し様々な解決方法を考え、他者と意見交流し、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図る。
- (3) 「教科等横断的」な視点（解P4、5）
指導に当たって、他教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導することが考えられる。また、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していく。
- (4) 「社会に開かれた教育課程」の視点（解P2）
教育課程の編成に当たって、社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、求められる資質・能力を教育課程において明確化し育み、地域の人的・物的資源を活用する。
- (5) 「道徳教育の充実」の視点（解P71、72）
家庭科と道徳科で扱う内容や教材の中で、適切なものを相互に活用すると効果的である。
- (6) 各項目に配当する授業時数及び各項目の履修学年（解P68、69）
児童や学校、地域の実態等を考慮し、各学校において適切な授業時数を配当する。2学年間を通して履修学年や指導内容を適切に配列すること。2学年間の学習の見通しをもたせるために、第5学年の最初に、ガイダンスを設定する。（編P133チェック表参照）

(7) 「A家族・家庭生活」の(4)の指導（解P69）

「家族・家庭生活についての課題と実践」については、それまでの学習により習得した知識及び技能などを十分に活用できるようにする。A、B、Cの内容の関連を図り、2学年間で一つ又は二つの課題を設定し、時期を考慮して実施する。

(8) 段階的な題材の配列（解P69）

学年の発展性や系統性、季節、学校行事、地域等との関連を考え配列する。基礎的なものから応用的なものへ、簡単なものから複雑なものへというように、次第に発展する内容であることに留意する。また、反復が必要なものについては、題材に繰り返し位置付けるなど、指導計画を工夫する。

(9) 題材の構成（解P69、70）

育成する資質や能力を明確する。関連する内容の組合せを工夫したり、学習過程との関連を図ったりする。児童や地域の実態に合わせ、身近な題材を設定するよう配慮する。

	食生活	衣生活
題材の指定	・日本の伝統的な文化を重視し、継承するための米飯とみそ汁 ・ゆでる材料として青菜やじゃがいも・和食の基本となるだしの役割	ゆとりや縫いしろを理解させるための袋

4 内容の取扱いと指導上の配慮事項（解P72～78）

(1) 言語活動の充実

家庭科では国語科を中心として育まれた言語能力を基に、調理や製作等における体験を通して生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解するようにしたり、観察や実習等の際のレポート作成や考察、思考したことを発表したりするなどの言語活動を通して、教科のねらいをより確実に定着させることができるようにする。

(2) コンピュータや情報通信ネットワークの活用

実習等における情報の収集・整理や、実践結果の発表などを行う際に、コンピュータをはじめとする情報機器を効果的に活用する。

(3) 実践的・体験的な活動の充実

実践的・体験的な活動を中心とし、児童が習得した知識及び技能を生活の場で生かすことができるよう、児童の実態を踏まえた具体的な活動を設定する。何をどのように学び、生活のどの場面でもどのように生かすのかを児童がイメージし、実践できるようにする。

(4) 個に応じた指導の充実

児童一人一人の個性を生かし伸ばすために、ティームティーチングや少人数指導を取り入れたりと、教材・教具を工夫したりする。また、学習形態の工夫や、児童の家庭科における実態をもとにした学習場面でのグループやペアなどのメンバー構成を考えるなど、効果的な学びができるようにする。

(5) 家庭や地域との連携

家庭や地域との連携を積極的に図り、児童が習得した知識及び技能を定着させていく。そのために、日ごろから家庭が家庭科の授業への関心をもてるよう、家庭科の学習内容を広くアピールしたり、授業におけるボランティアを要請したりするなど、計画的に行う。家庭・地域との連携が児童の学習を学校とともに支えていることを理解し、連携体制を持続させる。

(6) 実習の指導

家庭科は実践的・体験的な活動を通して学習するという特徴がある。その中心的な学習活動である調理や製作などの実習を安全かつ効果的に進めるために、事故防止、安全管理、衛生管理に十分配慮し、指導を徹底する。米飯とみそ汁、青菜とじゃがいも以外は題材を指定していないため、地域や学校、児童の実態に応じた多様な食品を用いることができる。その際、食物アレルギーへの対応には、十分配慮し、食品の扱い方に注意した適切な活用を図る。

第2 指導計画作成のための資料

1 内容、項目、事項について

内容の指導に当たっては、第4学年までの学習を踏まえ、他教科等との関連を考慮しながら、各内容の系統性を明確にして指導ができるよう配慮する。各内容の指導事項アは、知識及び技能の習得に係る事項、各内容の指導事項イは、アで習得した知識及び技能を活用して思考力、判断力、表現力等を育成することに係る事項である。それらの指導事項ア及びイは、学習過程を踏まえ、関連を図って取り扱う。

なお、家族構成や児童のプライバシーに十分配慮する。

【3(2)】、【3(3)】等について例示として示しているが、他の内容でも該当することが考えられる。授業を組み立てる際に、題材など内容や時間のまとまりを見通してこれらの視点を働かせ、授業改善を進めることが求められる。

(1) 各項目に示す事項のねらい、配慮事項及び活動例

内容・項目・事項・ねらい	*配慮事項	○活動例	☆各教科等の関連
(1) 自分の成長と家族・家庭生活			
ア 自分の成長の自覚、家庭生活と家族の大切さ、家族との協力			
・これまでの自分の生活を振り返るとともに、各内容と関連させ、自分の成長を自覚することを通して、家庭生活と家族の大切さや、家庭生活が家族の協力によって工夫して営まれていることに気付く。	* AからCまでの各内容の学習と関連を図り、日常生活における様々な問題について、家族や地域の人々との協力、健康・快適・安全、持続可能な社会の構築を視点として考え、解決に向けて工夫することが大切であることに気付かせる。【3(2)(4)】 ○ 学期や学年の終わりなど学習の区切りの時期に、実践記録などから学習の成果を振り返ることを通じて自分の成長への気付きが段階的に深まるようにする。 ☆ 道徳科「家族愛、家庭生活の充実」【3(5)】		
(2) 家庭生活と仕事			
ア 家庭の仕事と生活時間			
・家庭には衣食住や家族に関する仕事があり、自分や家族の生活を支えていることが分かる。 ・家族が協力し、仕事を分担する必要があることや生活時間の有効な使い方が理解できる。	* 家庭の仕事の分担と生活時間の有効な使い方を関連付けて扱う。 ○ 家庭での家族の生活や仕事を観察したり、家庭の仕事をしていてうれしいのはどんなときかインタビューしたりする。 ○ 自分と家族の生活時間の使い方を比較することで、家族の生活や家庭の仕事と関連付け、自分の生活時間の使い方を見直すようにする。		
イ 家庭の仕事の計画と工夫			
・家族との協力や健康・快適・安全などの視点から家庭の仕事の計画を考え、工夫することができる。	* 児童の家庭の状況に十分配慮し、家庭との連携を図るようにする。 * 「B衣食住の生活」と関連を図り、衣食住に関わる仕事を具体的に実践できるよう配慮する。 ○ B (6)「快適な住まい方」の整理・整頓や清掃の仕方を取り上げ、効率よく行うために家族と協力して分担するための実践計画を考え、工夫して活動に取り組む。【3(2)(3)】		
(3) 家族や地域の人々との関わり			
ア(ア) 家族との触れ合いや団らん			
・日常生活で、家族に気持ちを伝えたり触れ合う場をもったりすることで、家族相互のつながりが深まることが分かり、触れ合いや団らんの大切さについて理解できる。	* 自分の家庭生活との結び付きを考えながら学習するようにし、児童の家庭の状況に応じた方法で課題を解決していくことができるように配慮する。 ○ 普段何気なく過ごしている触れ合いの場や団らんを楽しくすることの大切さや日々の感謝の気持ちを表した手紙やメッセージカードを添えた手作りの品など心豊かに家庭生活を送るための工夫をする。 ☆ 道徳科「家族愛、家庭生活の充実」【3(5)】		
(イ) 地域の人々との関わり			
・家庭生活が地域の人々と関わりをもちながら成り立っており、異なる世代の人々との関わりや地域の人々との協力が大切であることが理解できる。	* 家庭や地域と積極的に連携を図り、具体的な場面から、家庭生活と地域とのつながりや地域の人々との協力の大切さについて気付くことができるようにする。 ○ 地域における生活のルールやマナーを調べたり、B (6)「快適な住まい方」との関連を図ったり、家族や地域の人々と快適に住まうために、生活の仕方によって発生する生活音等を取り上げたりして、自分の行動や生活を見直す。【3(4)】 ☆ 特別活動「異学年交流」等、総合的な学習の時間「福祉教育・環境教育」等【3(3)】		
イ 家族や地域の人々との関わりと工夫			
・家族や地域の人々との協力などの視点からよりよい関わりについて考え、工夫することができる。	* 他教科等における学習と関連させて、幼児や低学年の児童、高齢者などの異なる世代の人々との関わりについても扱う。【3(3)】 ○ 家族や地域の人々との直接的な触れ合いの場について、招待状を準備したり、お茶や果物を供したり、楽しく和やかに過ごす工夫を考えて計画し実践する。【3(2)(3)】		
(4) 家族・家庭生活についての課題と実践			
ア 日常生活についての課題と計画、実践、評価			
・これまでの学習との関連を図り、日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考えたことを表現するなどの学習を通して、課題を解決する力と生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。	* 学校や地域の行事等と関連付けて実践的な活動を実施する。【3(7)(8)】 * 家庭や地域での実践が難しい場合には、実践の場を学校に求めるなどの配慮をすることで、児童が安心して学習に取り組み、自分の家庭生活を見つめることができるようにする。 * 2学年間で一つ又は二つの課題を設定して履修する。 ○ 地域の高齢者や幼児、低学年の児童が参加する行事等で、交流したり協力したりすることを課題として設定し、交流会へ向けて、簡単な調理や必要な材料などを購入する計画を立てて実践し、評価・改善する。【3(2)(3)】		
(1) 食事の役割			
ア 食事の役割と食事の大切さ、日常の食事の仕方			
・食事の役割が分かり、日常の食事が大切であることや、日常の食事の仕方について理解できる。	○ 食事の仕方を実物や情報機器の活用により考えたり、学校給食や調理実習の試食の際にマナーや食器の扱いについて話し合ったりする。【3(3)】 ☆ 第3・4学年体育科「健康な生活に関する学習」等、第4学年までの食に関する学習		
イ 楽しく食べるための食事の仕方の工夫			
・楽しく食べるために、健康などの視点から食事の仕方を考え、工夫することができるようにする。	○ A (3)「家族や地域の人々との関わり」と関連させ、低学年の児童との交流給食など共に楽しく食べるための計画を立て、自分の食事の仕方の自覚と改善方法を考え、工夫する。【3(2)(3)】		
(2) 調理の基礎			

B 衣 食 住 の 生 活	ア(ア) 材料の分量や手順、調理計画	<ul style="list-style-type: none"> 調理に必要な材料の分量や手順が分かり、手順よく調理を進めるための調理計画について理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料の分量は、一人分の量から考えておよその量が分かるようにする。 手順については、材料を洗ってから切るなどの調理の手順を理解できるようにする。 身支度を整えて、必要な材料や調理器具等を準備し、調理の手順を確認し、グループでの協力の仕方を考え、時間配分をする。 	
	(イ) 用具や食器の安全で衛生的な取扱い、加熱用調理器具の安全な取扱い	<ul style="list-style-type: none"> 調理に必要な用具や食器を取り上げ、安全で衛生的な取扱いについて理解して適切に使用できるようにするとともに、加熱調理器具の安全な取扱いについて理解し、適切に使用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 包丁の安全な取扱いと食器やまな板、ふきんの衛生的な取扱いについて理解し、適切にしようできるようにする。 実習で使用する加熱用調理器具の特徴が分かり、火傷の防止などに留意して、安全な取扱いができる。 調理用具の安全な使い方を視覚的に捉えられる掲示物で明示する。【3(1)】 	
	(ウ) 材料に応じた洗い方、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付け	<ul style="list-style-type: none"> 材料に応じた洗い方、調理や食べやすさに配慮した切り方、適度な味の付け方、おいしく見える盛り付け、配膳及び後片付けを理解し、適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 洗い方や切り方を示範する場合には、実物投影機やタブレット端末等情報機器を活用して、手元がよく見えるようにする。 盛り付けや配膳については、B(1)「食事の役割」と関連させ、学校給食の時間を活用して効果的な指導を行う。【3(3)】 調理をすることによって出たごみや残菜、油などを排水口に流さないようにしたり、適切に分別したりできるようにする。 汚れを余り布や古紙などで拭き取ってから洗う。 	
	(エ) 材料に適したゆで方、いため方	<ul style="list-style-type: none"> ゆでたり、いためたりする調理の仕方について理解し、材料や調理の目的に応じて適切に加熱操作ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生の魚や肉は扱わない。 じゃがいもの芽や緑化した部分は、取り除く。 実習や実験を取り入れ、ゆで方、いため方の手順等の根拠について考える。 ゆでる材料として青菜やじゃがいもを扱う。【3(9)】 食品の変化を実感させるために、野菜やいも類、卵などについてゆで時間を変えて実験を行い、硬さ、色、味などを観察する。 	
	(オ) 伝統的な日常食の米飯及びみそ汁の調理の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 米飯とみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることや、調理の仕方を理解し、適切に調理できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験的な活動を通して、なぜそうするのか、手順の根拠について考えたり、観察して気付いたことなどを実感をもって言葉で表現したりする学習活動を取り入れ、理解を深める。【3(9)】 だしをとったみそ汁とだしのないみそ汁を比較し、和食の基本となるだしの役割について話し合う。 米飯については硬い米が柔らかい米飯になるまでの炊飯に関する一連の操作や変化について理解し、炊飯することができるようにする。 ☆第4学年までの食に関する学習 	
	イ おいしく食べるための調理計画及び調理の工夫	<ul style="list-style-type: none"> おいしく食べるために、健康・安全などの視点から、調理計画や調理の仕方を考え、工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理計画においては、一人で調理する場合の計画についても考えることができるようにする。 米飯とみそ汁、ゆでたりいためたりする調理、それらを組み合わせた朝食などについて、調理計画を考え、調理の仕方を工夫する。【3(2)(3)】 	
	(3) 栄養を考えた食事	ア(ア) 体に必要な栄養素の種類と働き	<ul style="list-style-type: none"> 体に必要な栄養素の種類と主な働きについて理解し、栄養を考えて食事をとることの大切さが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 名称や働きを覚えることだけに重点を置くのではなく、体に必要な要素を食事によってとっていることに気付き、栄養を考えて食事をとることの大切さが分かるようにする。 日常食べている食品に主に含まれる五大栄養素の種類や働きを調べて発表したり、栄養を考えて食事をとるにはどうしたらよいかを話し合ったりする。 ☆第5学年理科「植物の種子の中の養分に関する学習」【3(3)】
	(イ) 食品の栄養的な特徴と組合せ	<ul style="list-style-type: none"> 食品は含まれる栄養素の特徴により三つのグループに分けることができることや料理や食品を組み合わせると必要があることが理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品には複数の栄養素が含まれていることから、必ずしもいずれかのグループに厳密に分類しなくてもよい場合があることに配慮する。 ○日常の食事や給食に使われている食品や実習で使った食品を調べてグループ分けする。 	
	(ウ) 献立を構成する要素、献立作成の方法	<ul style="list-style-type: none"> 献立を構成する要素として主食、主菜、副菜があることが分かり、1食分の献立作成の方法について理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主食、主菜、副菜の組合せにより、栄養バランスがよくなることに気付き、組み合わせることの大切さが分かるようにする。 米飯とみそ汁を中心とした1食分を扱う。 ○主菜、副菜を例示の中から選択し、献立に含まれる食品を三つのグループに分けて栄養バランスを確認する。 	
	イ 1食分の献立の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 健康などの視点から、栄養のバランスを考え、1食分の献立を工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調理実習と関連を図り、米飯とみそ汁、ゆでたりいためたりしたおかずなどのような料理や食品を加えれば1食分の献立として栄養のバランスがよくなるのか考え、工夫する。【3(2)(3)】 	
	(4) 衣服の着用と手入れ	ア(ア) 衣服の主な働き、日常着の快適な着方	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の主な働きとして、保健衛生上及び生活活動上の働きが分かり、それらと関わらせて、季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節や状況に応じた日常着の着方については、観察や実験を通して具体的に考えられるよう配慮する。【3(8)】 ○実際に衣服を重ねて着た際の暖かさを調べたり、動作による身体の動き方を観察したり、実験を通して布の特徴を調べたりする。
	(イ) 日常着の手入れ、ボタン付け及び洗濯の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 衣服を大切に扱い、気持ちよく着るために、日常の手入れが必要であることが分かり、ボタン付けや洗濯の仕方を理解し、適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験・実習を通して、実感を伴って理解できるように配慮する。 A(2)「家庭生活と仕事」のイの学習との関連を図り、家庭と連携し、実践する喜びを味わうことができるよう配慮する。 ○靴下や体育着などの手洗いを通して、水だけの場合や、道具を使った場合の汚れの落ち方、乾きやすい干し方など結果を発表し合う。 	
	イ 日常着の快適な着方や手入れの工夫			

B 衣食住の生活	・健康・快適などの視点から、日常の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫することができる。	○夏を涼しく、冬を暖かく過ごすための着方を取り上げて、児童が考えた実験を通して比較する。 ○身近な衣服の手洗いを取り上げて、洗剤の量、水の温度、洗い方などによる比較を通して、効率的な洗い方について考えたり、干し方を変えて衣服の形の変化を比べてみたりして、手洗いの仕方を見直して工夫する。【3(2)(3)】
	(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作	
	ア(ア) 製作に必要な材料や手順、製作計画	
	・製作に必要な材料や製作手順が分かる。 ・製作する物や使い方などに応じた製作計画の必要性和計画の立て方を理解する。	*布や布で作られた物に対する関心を高めたり、でき上がりを具体的に思い描いたりして、製作への意欲をもたせるようにする。 ○縫いしろやゆとりの必要性について、不織布などを使って考えたり、必要な寸法を計ったり、又は既にある物を観察したりする。 ○布製品の実物を観察して製作手順を考えたり、段階見本等を用いて確かめたりする。
	(イ) 手縫いやミシン縫いによる縫い方、用具の安全な取扱い	
	・手縫いやミシン縫いの仕方が分かり、目的に応じた縫い方を理解する。 ・作業に必要な用具の安全な取扱いについて理解し、適切にできる。	*製作する喜びを味わいながら手縫いなどの基礎的・基本的な知識及び技能が身に付くようにする。なぜ、そのように縫うのかなど、手順等の根拠について理解できるように配慮する。 *製作の準備から片付けまで、児童一人一人が責任をもって安全に留意して行うことができるようにする。 ○製作品の使い方に応じて、丈夫に縫ったり、針目の大きさを変えて縫ったり、ほつれやすい布端を始末したりすることの必要性に気付かせ、製作計画を見直す。
	イ 生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画及び製作の工夫	
	・健康・快適・安全などの視点から、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画や製作を考え、工夫する。	*日常生活で使用する物を入れる袋などの製作を扱う。 ○目的に合っているか、手順や技能、時間、材料などが適切かどうかについて検討し、計画を見直して改善する。【3(2)(3)】 ○手縫いやミシン縫いを用いて飾り縫いをしたり、はぎれやボタンなどを用いて作品を飾ったりして工夫する。【3(2)(3)】
	(6) 快適な住まい方	
	ア(ア) 住まいの主な働き、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方	
・住まいの主な働きが分かり、季節の変化に合わせて自然を生かして生活することの大切さについて理解する。 ・暑さ・寒さへの対処の仕方やそれらと通風・換気との関わり、適切な採光及び音と生活との関わりについて理解する。	*暑さ・寒さ、通風・換気、採光、及び音については、健康・快適などを視点として、それぞれに関連付けて扱うようにする。 ○暑さへの対処の仕方については、窓の外側で太陽の熱をさえぎると暑さを防ぐ効果が大きいことを確かめたり、窓の開閉条件を変えて風通しを比べたりして、夏季を涼しく過ごすための工夫を考える。 ☆第3学年理科「光と音の性質」「太陽と地面の様子」、体育科「健康な生活に関する学習」、第4学年理科「空気と温度に関する学習」【3(3)】	
(イ) 住まいの整理・整頓や清掃の仕方		
・気持ちよく生活するために、住まいの整理・整頓や清掃が必要であることが分かる。 ・身の回りの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、適切にできるようにする。	*A(2)「家庭生活と仕事」のイの学習との関連を図り、実践する喜びや家族との関わりを感じながら学習を進める。 *適切な整理・整頓や清掃は、家庭内の事故を防ぐための安全な住まい方を考える上でも大切なことに気付かせるなど、中学校での学習につながるよう配慮する。 ○教室や家庭科室の机や引き出し、棚やロッカーなどで試行することを通して、整理・整頓の多様な視点に気付かせる。	
イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方の工夫		
・健康・快適・安全などの視点から、季節に変化に合わせた住まい方及び整理・整頓や清掃の仕方を考え、工夫することができる。	○暑さ・寒さへの対処として様々な冷暖房機器を比較したり、通風・換気について、自然換気と換気扇等を比較したりする。【3(2)(3)】 ○洗剤や清掃用具を用いて汚れの落ち方を比較し、その理由を考えたり調べたりする。【3(2)(3)】	
C 消費生活・環境	(1) 物や金銭の使い方と買物	
	ア(ア) 買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の大切さ、計画的な買い方	
	・買物の仕組みや消費者の役割が分かる。 ・生活を支える物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解する。	*物や金銭の計画的な使い方については、身近な消費生活を振り返り、自分の課題に気付くことができるようにする。 *売買契約の基礎について触れる。 ○買物の仕組みについて、児童に身近な例での契約と約束の違いに気付かせたり、買物のどの場面で売買契約が成立したのかを考えさせたりする。 ○消費者の役割について、自分や家族の買物の経験を基に購入した物の使い方について話し合う。 ☆第3学年社会科「地域に見られる生産や販売の仕事」【3(3)】
	(イ) 身近な物の選び方、買い方、情報の収集・整理	
	・身近な物の選び方、買い方を理解し、目的に合った品質のよい物を選んで購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。	*身近な物を実際に購入する場合を想定し、具体的に考えることができるようにする。 ○調理実習や製作に使う材料や用具を購入する場合を想定して、必要な情報を収集・整理し、選んだ理由や買い方について意見を交換し合う。
	イ 身近な物の選び方、買い方の工夫	
	・持続可能な社会の構築などの視点から、物の選び方、買い方を考え、工夫することができる。	*身近な物を実際に購入する場合を想定し、日常生活で実践できるようにする。 ○団らんや会食のための買物や、調理や製作の実習材料、整理・整頓の学習での持ち物の見直しなどを取り上げ、計画を立てて購入の仕方を工夫する。【3(2)(3)】
	(2) 環境に配慮した生活	
	ア 身近な環境との関わり、物の使い方	
	・自分の生活が身近な環境から影響を受けたり、影響を与えたりしていることが分かる。 ・環境に配慮した物の使い方などについて理解できる。	*「B衣食住の生活」との内容との関連を図り、調理の材料や製作で使用する布などの具体的な物を対象として、実践的な学習を展開する。 ○実習材料の無駄のない使い方について、各自の工夫を発表し合い、効果的な方法に気付くことができるようにする。 ☆総合的な学習の時間「環境教育」等【3(3)】
イ 環境に配慮した物の使い方の工夫		
・持続可能な社会の構築などの視点から、自分の生活と身近な環境との関わり及び物の使い方などを考え、工夫する。	*「B衣食住の生活」との関連を図り、実践的な学習ができるようにする。 *身近なものを実際に購入する場合を想定し、日常生活で実践できるように配慮する。 ○材料や水、ガスなどの使い方や、ごみを減らす工夫を考えて持続的に取り組む。 ○使い終わった物を他の用途に再利用するなど、不用品を減らすために工夫する。【3(2)(3)】 ○リサイクル活動等の環境に配慮した地域の取組を調べ、協力する。【3(4)】	

- (2) 空間軸や時間軸の視点を重視し、小・中・高等学校の体系化を図った指導計画の作成
空間軸の視点では、家庭、地域、社会という空間的な広がりから、時間軸の視点では、これまでの生活、現在の生活、これからの生活、生涯を見通した生活という時間的な広がりから学習対象を捉え、学校段階を踏まえて指導内容を整理する。
- (3) 学習過程を踏まえた育成する資質・能力の明確化
生活の中から問題を見だし、課題を設定し、解決方法を検討し、計画、実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視し、この過程を踏まえて知識及び技能の習得に係る内容や、それらを活用して思考力、判断力、表現力等の育成に係る内容について整理する。

2 小学校家庭、中学校技術・家庭（家庭分野）の内容一覧

小学校	中学校（家庭分野）
目標は「小学校学習指導要領解説 家庭編」P11参照	目標は「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」P60参照
A 家族・家庭生活	A 家族・家庭生活 （ <input type="checkbox"/> は選択項目）
(1) 自分の成長と家族・家庭生活 ア 自分の成長の自覚、家庭生活と家族の大切さ、家族との協力 (2) 家庭生活と仕事 ア 家庭の仕事と生活時間 イ 家庭の仕事の計画と工夫 (3) 家族や地域の人々との関わり ア (ア)家族との触れ合いや団らん (イ)地域の人々との関わり イ 家族や地域の人々との関わりの工夫 (4) 家族・家庭生活についての課題と実践 ア 日常生活についての課題と計画、実践、評価	(1) 自分の成長と家族・家庭生活 ア 自分の成長と家庭生活との関わり、家族・家庭の基本的な機能、家族や地域の人々との協力・協働 (2) 幼児の生活と家族 ア (ア)幼児の発達と生活の特徴、家族の役割 (イ)幼児の遊びの意義、幼児との関わり方 イ 幼児との関わり方の工夫 (3) 家族・家庭や地域との関わり ア (ア)家族の協力和家族関係 (イ)家庭生活と地域との関わり、高齢者との関わり方 イ 家庭生活をよりよくする方法及び地域の人々と協働する方法の工夫 (4) 家族・家庭生活についての課題と実践 ア 家族、幼児の生活又は地域の生活についての課題と計画、実践、評価
B 衣食住の生活	B 衣食住の生活
(1) 食事の役割 ア 食事の役割と食事の大切さ、日常の食事の仕方 イ 楽しく食べるための食事の仕方の工夫 (2) 調理の基礎 ア (ア)材料の分量や手順、調理計画 (イ)用具や食器の安全で衛生的な取扱い、加熱用調理器具の安全な取扱い (ウ)材料に応じた洗いや、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付け (エ)材料に適したゆで方、いため方 (オ)伝統的な日常食の米飯及びみそ汁の調理の仕方 イ おいしく食べるための調理計画及び調理の工夫 (3) 栄養を考えた食事 ア (ア)体に必要な栄養素の種類と働き (イ)食品の栄養的特徴と組合せ (ウ)献立を構成する要素、献立作成の方法 イ 1食分の献立の工夫 (4) 衣服の着用と手入れ ア (ア)衣服の主な働き、日常着の快適な着方 (イ)日常着の手入れ、ボタン付け及び洗濯の仕方 イ 日常着の快適な着方や手入れの工夫 (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 ア (ア)製作に必要な材料や手順、製作計画 (イ)手縫いやミシン縫いによる縫いや、用具の安全な取扱い イ 生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画及び製作の工夫 (6) 快適な住まい方 ア (ア)住まいの主な働き、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方 (イ)住まいの整理・整頓や清掃の仕方 イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方の工夫	(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴 ア (ア)食事が果たす役割 (イ)中学生の栄養の特徴、健康によい食習慣 イ 健康によい食習慣の工夫 (2) 中学生に必要な栄養を満たす食事 ア (ア)栄養素の種類と働き、食品の栄養的特質 (イ)中学生の1日に必要な食品の種類と概量、献立作成 イ 中学生の1日分の献立の工夫 (3) 日常食の調理と地域の食文化 ア (ア)用途に応じた食品の選択 (イ)食品や調理用具等の安全・衛生に留意した管理 (ウ)材料に適した加熱調理の仕方、基礎的な日常食の調理 (エ)地域の食文化、地域の食材を用いた和食の調理 イ 日常の1食分の調理及び食品の選択や調理の仕方、調理計画の工夫 (4) 衣服の選択と手入れ ア (ア)衣服と社会生活との関わり、目的に応じた着用や個性を生かす着用、衣服の選択 (イ)衣服の計画的な活用、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ イ 日常着の選択や手入れの工夫 (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 ア 製作する物に適した材料や縫いや、用具の安全な取扱い イ 生活を豊かにするための資源や環境に配慮した布を用いた物の製作計画及び製作の工夫 (6) 住居の機能と安全な住まい方 ア (ア)家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能 (イ)家族の安全を考えた住空間の整え方 イ 家族の安全を考えた住空間の整え方の工夫 (7) 衣食住の生活についての課題と実践 ア 食生活、衣生活、住生活についての課題と計画、実践、評価
C 消費生活・環境	C 消費生活・環境
(1) 物や金銭の使い方と買物 ア (ア)買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の大切さ、計画的な使い方 (イ)身近な物の選び方、買いや、情報の収集・整理 イ 身近な物の選び方、買いやの工夫 (2) 環境に配慮した生活 ア 身近な環境との関わり、物の使い方 イ 環境に配慮した物の使い方の工夫	(1) 金銭の管理と購入 ア (ア)購入方法や支払い方法の特徴、計画的な金銭管理 (イ)売買契約の仕組み、消費者被害、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理 イ 情報を活用した物資・サービスの購入の工夫 (2) 消費者の権利と責任 ア 消費者の基本的な権利と責任、消費生活が環境や社会に及ぼす影響 イ 自立した消費者としての消費行動の工夫 (3) 消費生活・環境についての課題と実践 ア 環境に配慮した消費生活についての課題と計画、実践、評価

3 2学年間を見通した指導計画例

(1) 基礎的な理解及びそれらに関わる技能の確実な定着を重視した年間指導計画例

◎実践的・体験的な学習活動を繰り返し行い、基礎的な理解及びそれらに関わる技能を確実に身に付け、活用する場面を設定した指導計画とした。

<第5学年(60時間)>

月	題材名(題材の時間の目安) ○小題材名と内訳時数	内容	学習活動 太字：改訂によって新設・変更された事項	☆実践的・体験的な活動 太字：改訂によって新設・変更された事項
4	わくわく家庭科 スタート! (2時間) ○わたしと家族の生活 ① ○始めよう家庭科 ①	A(1) ア	・これまでの生活を振り返って自分の成長を自覚するとともに家庭生活と家族の大切さに気付く。 ・家庭科の学習について2学年間の見直しをもつ。	・入学からの生活や学習の振り返りにより、これまで家族や周囲の人々に支えられてきたことに気付くようにする。 ☆ガイダンスとして家庭科を自由に探検し、掲示物や作品見本などから、2学年間の学習を見直し、自分のめあてをもって学習する。
	見つめてみよう家庭の仕事 (3時間)	A(1) ア A(2) アイ	・家庭の中での衣食住や家族に関する仕事について考える。 ・家族の一員として、自分の分担する仕事を決めて、家庭で実践する。	☆家庭での観察を通して、家庭の中には衣食住や家族に関する様々な仕事があることに気付かせ、互いに協力し分担して自分や家族の生活を支えていることを理解させる。 ・実践カードを活用し、継続して家庭で仕事を続けられるように工夫する。 【3(2)(3)】
5	ゆでる調理に チャレンジ! (9時間) ○ゆでるよさって?③ ○ゆでるおかずを作ろう ⑥	B(2)ア (ア)(イ) (ウ)(エ)	・ゆでる調理に関心をもち、材料や手順を考えて調理をする。 ・調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取り扱い方や加熱用調理器具の安全な使い方を知る。 ・環境に配慮し、材料の分量や後片付けの仕方を考える。	・ 加熱用調理器具 や調理用具の安全な取扱いをしっかりと身に付けさせる。 ☆ゆでる材料として 青菜やじゃがいも 、卵などを扱い、実験実習を通して調理の特性を理解できるようにする。 ・実験実習を生かして、ゆでる調理をする。 ・「どこまでできるかなカード～食生活編～」で達成状況を確認する。
6		C(2) ア		
7	身に付けよう!手ぬい (9時間) ○さいほう用具をそろえて手ぬいに挑戦 ⑦ ○かわいい小物作り②	B(5) ア (ア)(イ) C(1) ア(イ)	・手縫いに必要な用具を揃え正しく安全に使う。 ・針と糸の扱い方、手縫いの仕方やボタンの付け方を知る。 ・生活を豊かにする簡単な小物を手縫いで製作する。	☆学校の裁縫用具を使って試しに縫ってみることににより、手縫いの用具には何が必要かを考えて購入する。 ・はさみや針等の用具の安全な使い方について十分指導する。 ・手縫いの仕方を生かして、簡単な小物製作に取り組みさせる。 ・「どこまでできるかなカード～衣生活編～」で達成状況を確認する。
9	快適な生活をしよう ～夏をすっきり すずしく～ (5時間) ○すずしい着方 ② ○すずしい住まい方③	B(4) ア(ア) B(6) ア(ア) イ	・衣服の主な働きについて考え、季節や状況に応じた涼しい着方を工夫し、実践する。 ・ 住まいの主な働き を知り、季節の変化に合わせた涼しい住まい方の工夫について調べてまとめ、発表する。	・暑さの残る時期に、実感を伴って学習し、家庭生活に生かせるようにする。 ・ 住まいの主な働き や涼しく過ごすための通風の仕方が分かり、工夫できるようにする。 ☆理科や総合的な学習の時間の学習との関連を図り、自分の課題を見つけ、調べたり取材したり実践したりしたことをまとめ、発表する。 【3(2)(3)】
10	身に付けよう!ミシンぬい (10時間) ○ミシンぬいに挑戦② ○楽しく便利な物を作ろう ⑧	B(5) ア (ア)(イ) イ	・ミシンの安全な使い方を知り、直線縫いをする。 ・ミシンを正しく安全に使い、縫う。 ・身の回りの布製品を調べ、ミシンを使って 生活を豊かにする 物を工夫して製作する。	・ミシンの取扱いについて、友達同士での教え合いや資料の活用など、自主的に学習が進められるように環境を整える。 ・ミシンに慣れることに重点を置き、製作する物は平易な物にする。(ランチョンマット、カフェエプロンなど) ・「どこまでできるかなカード～衣生活編～」で達成状況を確認する。
11	身の回りを気持ちよく (5時間) ○整理・整とんをしよう ② ○そうじで身の回りを快適にしよう ③	B(6) ア (イ) イ C(2) アイ	・家庭や学校での経験をもとに住まいの整理・整頓及び清掃に関する問題を見つけ、身の回りを快適にする方法を考える。 ・身の回りの整理・整頓や清掃の仕方を知り、学校や家庭で実践する。	・環境に配慮した片付け方や掃除の仕方を見つけて実践できるように支援する。 ☆学校で実践するとともに、家庭での実践を報告し合い、友達の手伝いを生活に生かす。 【3(2)(3)】 ・道徳の節度節制の学習との関連を図り、学習を進め、実践を継続できるよう意欲を喚起する。 【3(5)】
12	冬休みはおまかせ (2時間)	A(4) ア	・これまでの学習で身に付けた知識及び技能を活用し、冬休みに行う家庭の仕事を考え計画を立て、実践する。	☆家の人に困っていることをインタビューして課題を見付け、地域のアドバイザーの方にそれぞれの課題についてアドバイスをもらい、学習計画を立てられるようにする。 【3(2)(3)】 ・報告会を通して、さらなる実践意欲を高める。
1	食べて元気に ザ・和食! (14時間) ○どんなものを食べているのかな ① ○栄養を考えて食べよう ④ ○ご飯とみそ汁の作りにチャレンジ! ⑨	B(1) アイ B(3) ア (ア)(イ) B(2) ア(ア) (イ)(ウ) (エ)(オ) イ C(1) ア(イ)	・食事の役割を知り、食事の大切さについて考える。 ・食品の栄養的特徴と組み合わせについて考え、自分の食事を見直す。 ・体に必要な栄養素の種類と主な働きを知り栄養を考えて食事をとることの大切さを理解する。 ・ 伝統的な日常食 である米飯とみそ汁の作り方を調べ、試し調理をする。 ・調べたことや試し調理をもとにして、米飯とみそ汁の調理をする。	・栄養教諭とのT.Tを取り入れ、栄養を考えた食事について、より深く学べるようにする ・五大栄養素と食品の体内での働きを中心に扱う。 ・好き嫌いを減らしたり1品加えたりと自分のできることから始め、継続して家庭実践できるように励ますようにする。 ☆米の洗い方や水加減、浸水時間、加熱の仕方、蒸らし方、 和食の基本となるだしの役割 ととり方、みそ汁の味の選び方、みその扱い方などを調べ、試し作りをし、本実習につなげる。 ・地域素材を活用するための家庭や地域で調べた情報を交換し、材料を選び、工夫して調理計画を立てる。 【3(2)(3)】 ・「どこまでできるかなカード～食生活編～」で達成状況を確認する。
3	できるようになったよ 家庭の仕事 (1時間)	A(1) ア	・1年間の学習を振り返る。	・これまでの学習や「どこまでできるかなカード」などを振り返ることにより1年間の成長を実感し、第6学年への目標をもつことができるようにする。

<第6学年 (55時間) >

月	題材名(題材の時間の目安) ○小題材名と内訳時数	内容	学 習 活 動 太字：改訂によって新設・変更された事項	☆ 実践的・体験的な活動 ・ 指導上の留意点 太字：改訂によって新設・変更された事項
4	生活時間、見直し大作戦! (4時間) ○生活時間を調べよう② ○だんらんでにっこりほっこり作戦 ②	A(2) アイ A(3) ア ア (ア)イ イ	・自分の生活時間を見直し、生活の仕方や家族との触れ合いのために有効な使い方や家族や地域の人々に協力できる工夫を考える。 ・お茶の入れ方を知り、団らんの計画を立てて工夫し、実践する。	・生活時間を見直しをすることによりできた時間を有効に使う方法を考え、グループで個々の考えを発表させ、話し合うことで考えを深め、工夫して家族や地域の人々との関わりをもてるように促す。【3(2)(3)】 ☆お茶を入れ、団らんを楽しむための工夫を考えたり、話し合ったりして家庭での計画を立て、実践する。【3(2)(3)】
5	朝食作りにチャレンジ! (10時間) ○朝食の役割 ② ○いためるよさって? ② ○いためておいしいおかず作り ⑥	B(1) ア B(2) ア (ア)イ (ウ)イ イ B(3) ア (イ)ウ イ C(2)ア	・朝食の役割を知る。 ・いためる調理のよさをと材料に適したいため方を知る。 ・いためる調理を生かした朝食作りの計画を工夫する。 ・いためる調理に関心をもち材料や手順を考えて調理をする。 ・フライパンの扱い方や環境に配慮した後片付けの仕方を知る。	・朝食をとることにより学習や活動のための体の準備ができることをおさえる。 ・実験学習により、いためる調理のよさと材料に適したいため方をおさえる。 ☆短時間でできるいためる調理を活かして、栄養のバランスのよい朝食作りの計画を立てる。【3(2)(3)】 ☆1人で調理を行えるように環境を整備し、調理の技能を確実に身に付ける。 ・「どこまでできるかなカード～食生活編～」で達成状況を確認する。 ☆家族のための朝食作りの計画を立て、家庭実践へつなげる。 ・環境へ配慮した片付け方を身に付けさせる。【3(2)(3)】
6				
7	気持ちよく着よう (6時間) ○日常着の手入れ ② ○手洗いできれいに ④	B(4) ア (ア)イ イ B(5) ア(イ) C(2) ア	・日常着の快適な着方や 日常着の手入れ の必要性について考える。 ・ボタンの付け方や洗濯の仕方を知る。 ・身近なものを手洗いする計画を立て、実習を行う。 ・洗濯の必要性や環境に配慮した洗濯の仕方について考え、工夫する。	・日常着を快適に着るためには、ボタン付けや洗濯、 衣替え など手入れが必要であることを理解させる。 ☆第5学年の小物づくりで行ったボタン付けに関し、繰り返し実習し、技能の定着を図る。 ☆靴下や体育着など身近な物を観察して自分の課題を見つけ、手洗いし、結果を共有する。 ・「どこまでできるかなカード～衣生活編～」で達成状況を確認する。
9	お金と物をじょうずに使おう (5時間) ○買物の仕組み ② ○よりよい買い物の仕方を考えよう ③	C(1) ア (ア)イ イ C(2) イ	・自分の物の選び方や買い方について振り返る。 ・ 買物の仕組み を知る。 ・修学旅行の小遣いの使い方の計画を立て、実際に買物をして、よりよい買物の仕方を工夫する。	☆買物シミュレーションをし、いろいろな場面を想定して物の選び方や買い方を考える。 ・ 買物の仕組みと売買契約の基礎、消費者の役割 、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解させる。 ☆みやげ物の写真や価格表から必要な情報を収集・整理して計画を立て、実際に修学旅行での買物を通して、自分の買物の仕方について振り返る。【3(2)(3)】
10	1食分の食事作りにチャレンジ! (11時間) ○献立の立て方 ③ ○食事の役割と食事の仕方 ② ○1食分の食事を作ってみよう ⑥	B(1) アイ B(3)ア (イ)ウ イ B(2)ア (ア)イ (ウ)イ (オ)イ	・米飯とみそ汁を中心として三つの食品グループの揃った1食分の 献立(主食、主菜、副菜) を考える。 ・食事の役割や 食事の仕方 、楽しく食事をする工夫について確かめる。 ・これまでの学習を生かして栄養バランスのよい1食分の献立を立てる。 ・考えた献立を実際に調理し、さらに改善して、家庭実践に結び付ける。	・ 献立を構成する要素 と作成方法を確認する。 ☆これまでの調理技能や栄養についての学習を生かした献立を工夫し、1食分の食事を調理する。 ・2学年間の食生活の学習の総まとめの学習になるので、食事の役割や 食事の仕方 、楽しく食事をする工夫についても再度考え、家庭で実践できるようにする。【3(2)(3)】 ・「どこまでできるかなカード～食生活編～」で達成状況を確認する。 ☆献立作成や実習で考えたことや工夫したことを評価し、さらにどのように改善して生活に生かせばよいか考えるようにする。【3(2)(3)】
11				
12	生活を豊かにする物を作ろう (10時間) ○製作計画を立てよう② ○生活を豊かにする物を作ろう ⑦ ○使ってみました報告会 ①	B(5) ア (ア)イ イ C(1) ア(イ)	・手縫いやミシン縫いの学習を生かして、目的に応じた縫い方を考え、工夫して製作計画を立てる。 ・材料や用具を購入するための情報を集め、意見交換をする。 ・ 生活を豊かにする物 を製作する。	☆既習の製作や活用状況を振り返り、形や作り方などを工夫し、 袋 など 生活を豊かにする物 を製作する。 ・製作手順やミシン等の安全な使い方、ゆとりや縫いしろの必要性を視覚的に捉えられる掲示物を明示する。【3(1)】 ・製作の目的に合った布を選ぶために、布見本や価格表などから必要な情報を収集・整理し、選んだ理由や買い方について意見を交換し合う場を設定する。【3(2)(3)】 ・「どこまでできるかなカード～衣生活編～」で達成状況を確認する。 ・仕上がった作品を日常生活で活用する楽しさや手作りのよさを報告し合わせ、次の製作への意欲を高める。【3(2)(3)】
1				
2	快適な生活をしよう～冬をもっとあたたかく～ (6時間) ○あたたかい着方 ② ○あたたかい住まい ④	B(6) ア(ア) イ B(4) ア(ア) イ A(4) ア	・生活を振り返ったり実験をしたりして季節や状況に応じた日常着の快適な着方を考える。 ・暖かい着方を工夫し、実践する。 ・季節の変化に合わせた暖かい住まい方の工夫について調べる。 ・適切な採光や 音 について考える。	☆第5学年の「涼しい着方」と比較したり、着方の実験をしたりして、体感する。 ・ 季節の変化に合わせた住まい方 をおさえる。 ・暖かい住まい方については、暖房器具を使うだけでなく採光や音、換気の仕方、家具の置き方など生活の仕方の知恵・生活文化の大切さに気付かせ、日常生活を見直して課題を設定し、計画・実践・改善し、さらに次の実践へつなげられるようにする。【3(2)(3)】
3	感謝の気持ちを伝え、つながりを深めよう (2時間)	A(3) イ	・家庭生活と 地域 の人々との関わりについて考え、自分にできる計画を立てる。	・家庭の状況に応じた方法で学習を進められるよう支援する。 ・ 低学年の児童や地域 の人々を招いて楽しく和やかに過ごすための工夫を考え、実践する。【3(4)】
	成長したねわたしたち (1時間)	A(1) ア	・今までの成長を自覚し、家庭生活をよりよくするための新しい課題をもつ。	・これまでの学習や「どこまでできるかなカード」などを見て、2学年間の学習の成果を振り返ることにより、自分の成長に気付き、家族の一員としての自覚をもって中学校へつなげるようにする。

(2) 家庭生活と学習を結び付け、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成することを重視した年間指導計画例

◎「A家族・家庭生活」に視点を当て、児童が家族や地域の人々と協力し、よりよい家庭生活を工夫して実践する喜びを味わえるよう「みつめる・さぐる・実践・深める・いかす」の学びの過程を重視した指導計画とした。

＜第5学年（60時間）＞

月	題材名(題材の時間の目安) ○小題材名と内訳時数	内容	学習活動 太字：改訂によって新設・変更された事項	☆生活をよりよくしようと工夫する活動・指導上の留意点 太字：改訂によって新設・変更された事項
4	はじめよう！「家庭科」 見直そう「家庭生活」 (2時間) ○見直そう家庭生活 ① ○よりよくしたいな 2年後の家庭生活 ①	A(1) ア	・これまでの生活を振り返り自分の成長を実感する。 ・2学年間の学習を見直し、よりよい家庭生活実現のためにできるようになりたいことを話し合う。	・生活の営みに係る見方・考え方の視点から家庭生活を見直すことができるようにする。 ☆自分の目標や課題を見付け、見直しをもって学習に取り組ませるために、学習の区切りの時期に学習の成果を振り返る。 ・道徳の家族愛・家庭生活の充実の学習との関連を図る。 【3(5)】
5	目指そう かしこい消費者 (2時間)	C(1) ア (ア)(イ)	・買物の仕組みや消費者の役割を理解し、物や金銭の大切さと計画的な使い方を考える。	・身近な物の購入を例に取り上げ、消費者である自覚をもたせ、適切な消費行動をとる必要に気付かせる。 ・5年生1学期に題材を設定することで、B衣食住の題材との関連を図る。
6	協力しよう！家庭の仕事 (20時間) ○家庭の仕事を調べ 生活時間を見直そう ② ○目指そう快適な住まい 「整理・整とん 編」 ③ ○豊かにしよう衣生活1 手ぬいにチャレンジ！ ⑥	A(2) ア B(6) ア(イ) C(2)ア B(4) ア(イ) B(5)ア (ア)(イ) イ	・家庭の仕事を調査し、自分と家族の生活時間を比較する中で仕事を分担し実践する。 ・自分の家庭や学校の整理・整頓の方法を調べ、快適にする方法を考え実践する。 ・環境に配慮した物の使い方を考える。	☆分担した仕事を継続的にを行い、定期的に見直しや改善を図りワークシートにまとめ、仕事を分担することの必要性に気付かせる。 ・散らかっている部屋の写真から身の回りの整理・整頓の方法について考え、身の回りの人たちに取材してレポートを作成し、「 快適 」の視点で実践できるようにする。 【3(2)(3)】
	○豊かにしよう衣生活2 手ぬいにチャレンジ！ ⑥ ○食事って何だろう？ ゆでる調理に挑戦！ ⑦	B(4) ア(イ) B(5)ア (ア)(イ) イ B(1) アイ B(2)ア (ア)(イ) (ウ)(エ) B(3)ア (ア) C(1)ア (ア)(イ)	・自分や家族の生活を豊かにする物を調べ、目的に応じた手縫いやボタン付けの仕方を理解し、手縫いで小物作りを工夫して行う。 ・食事の役割やマナーについて知り、楽しく食事をする工夫をする。 ・栄養を考えて食事をする事の大切さを知る。(五大栄養素) ・ゆでる調理の仕方について理解し、材料や目的に応じて食品をゆでる。(卵・ 青菜) ・食品の選び方、買い方を知り、情報を収集・整理し、選んだ理由等の意見交換をする。 ・ゆでるおかずや材料の購入計画を立てる。	☆調理実習の試食や学校給食を通し、 低学年の児童 との交流給食など、楽しく食事をするためのマナーや食卓の工夫について考えたり話し合ったりする。 【3(2)(3)】 ・青菜では、ゆでてかさが減ることやゆで時間と食感、卵では、ゆで時間と固まり具合を実験等で体感させる。 ・青菜や卵など調理実習で使う材料の買い方について、値段や分量、品質など多様な観点から比較検討し具体的な買物計画を立てられるようにする。 【3(2)(3)】
7	○やってみよう！家庭の 仕事夏休み編1 ・夏休み実せん計画を 立てよう ① ・夏休みチャレンジ発表会 ①	A(1)ア B(2)ア (ア)(イ)	・今までの学習からできるようになったことを振り返り、夏休みに行く家族のためのゆでるおかずの実践計画を立てる。 ・夏休みに家庭で実践したことを発表し合う。	・卵や青菜の他にも他の食品も扱って、家族のためのゆでるおかずの実践計画を立てることができるようにする。 【3(2)(3)】 ☆1学期を振り返り、自分のできるようになったことをワークシートに記入するとともに、教師、家族、友達からのアドバイスをもらい自分の成長を実感させる。
9	伝統的な日常食 ご飯とみそしるを作ろう (16時間) ○ご飯とみそしるの ひみつをさぐる ⑥ ○家族のためのオリジナル みそしるを作ろう ⑤	B(2)ア (ア)(イ) (ウ)(オ) B(3)ア (イ)(ウ)	・米飯とみそ汁の調理に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付ける。 ・家族のためのオリジナルみそ汁を作る。 ・食品の栄養的な特徴による三つのグループの分け方や1食分の献立の立て方を理解する。 ・米とみそ汁を中心とした献立を普段食べているおかずと組み合わせで考える。 ・自分の考えた献立を友達と発表し合う。	・家庭での米の炊き方やみそ汁の実際の取り合わせをインタビューしたり、給食の献立を振り返ったりして、自分達の計画の参考とする。 【3(2)(3)】 ・ご飯とみそ汁の調理やその配膳など 日本の伝統的な食文化 の大切さに気付かせる。 ・実習の手順や時間配分を大きく掲示する。 【3(1)】 ・主菜、副菜の例示の中から選択し、献立に含まれる食品を三つのグループに分けて栄養のバランスを確認させる。 ☆栄養の学習と献立の学習は、繰り返しを行い、自分の献立を見直す中で、「 健康 」の視点で改善できるようにしていく。
10	○栄養バランスのよい 献立を考えよう ⑤			
11	目指そう快適な住まい 「整理・整とん・ そうじ編」 (5時間) ○そうじで快適生活 ③ ○物の使い方や購入に ついて考えよう ②	B(6) ア(イ) C(1)ア(イ)	・学校や家の汚れやすいところを調査し、清掃の方法を知り、整理・整頓と組み合わせで清掃の実践を行う。 ・整理した中から出てきた物をもとに購入の仕方について話し合う。	・なぜ汚れるのか、何のために清掃するのかを考えさせ、汚れに応じた清掃が実践にできるようにする。 ・今まで無駄な物の購入がなかったかを反省し、購入の仕方についてこれからの生活への生かし方を考えるようにする。
12	よりよくしよう家庭生活 (4時間) ○冬休み実せん計画を 立てよう ② ○冬休みチャレンジ 発表会 ②	A(1)ア A(4)ア B(6)ア (イ)	・「目指そう快適な住まい」の学習を振り返り生活の中から課題を見付け、解決に向けての冬休み実践計画を立てる。 ・冬休みに実践したことを言葉や図表や概念で表し、グループで発表し合う。 ・発表後、意見交換を行い友達のアドバイスなどを参考に実践を見直す。	☆自分の生活の中から課題が見付けられるように支援し「みつめる・さぐる・実践・深める・いかす」の学びの過程で見直しをもって学習を進めることができるようにする。【3(2)(3)】 ☆実践報告で互いの取組のよさを認めたりアドバイスし合ったりし自分の実践を振り返り今後の学習に生かしていく。 ☆家庭実践やできるようになったことを振り返り家族からメッセージをもらうことで変容を見取り自分の成長を実感する。
1	豊かにしよう衣生活2 ミシンぬいにチャレンジ！ (10時間)	B(5) ア (ア)(イ)	・身の回りにある布製品について調べ、ミシン縫いと手縫いの比較からそれぞれの縫い方のよさに気付くミシン縫いの基本的な操作を身に付ける。	・ミシン縫いの基本的操作を繰り返し行い、練習に布を重ねて縫うコースター等を作成しながら確実に身に付けさせる。 ・簡単な直線縫いでできるランチョンマットやカフェエプロンなど製作計画を立て、製作の見直しをもって製作させる。
2	○ミシンぬいにトライ ②	イ		
3	○ミシンぬいで作ろう ⑧			
	できるようになったよ 家庭の仕事 (1時間)	A(1) ア	・1年間の学習を振り返り、6年生の学習への見直しを立たせる。	☆目標を達成できたかを自己評価するとともにできるようになったことを実践記録から振り返り、第6学年への目標をもつ。

<第6学年 (55時間) >

月	題材名(題材の時間の目安) ○小題材名と内訳時数	内容	学習活動 太字：改訂によって新設・変更された事項	☆生活をよりよくしようと工夫する活動・指導上の留意点 太字：改訂によって新設・変更された事項
4	充実させよう家庭生活 (3時間)	A(2)イ A(3) A(ア) (イ)イ	<ul style="list-style-type: none"> これまで行ってきた家庭の仕事の課題を見付け、工夫して行う計画を立てる。 自分の生活時間を振り返り、家族や地域の人々との関わりを見直し、自分の家庭生活をよりよくする工夫を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆自分の家庭生活をよりよくする工夫や1年間でするようにしたい目標をワークシートに記入し、家族からもメッセージをもらい意欲付けを図る。 ・触れ合いの場を楽しく和やかにする工夫等を考えさせる。 【3(2/3)】
5	作ろう栄養を考えた食事 (20時間) ○いためものに挑戦!⑦	A(3) ア(ア) B(1) アイ ア(ア)	<ul style="list-style-type: none"> いためる調理の実習計画を立て、野菜のための調理を行う。試食の際にマナーについて考えさせ、楽しく食べる工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理の目的によっていためる時間や火力に違いがあることに気付かせ、いため方の手順について根拠をもって言葉で表現する活動を取り入れる。
6	○1食分の食事を作ってみよう ・食生活を振り返ろう ① ・簡単なおかずを作ろう ④ ・ご飯・みそしるの中心の1食分の献立を作成して実習をしよう ⑤ ・家族のための1食分の実習計画を立てよう ② ・実践報告会を開こう ①	B(2) ア(ア) (イ)ウ (エ) イ B(3)ア (イ)ウ イ C(1)イ	<ul style="list-style-type: none"> ・じゃがいもや加工食品を使い、ゆでる・いためるを組み合わせた調理に挑戦する。 ・第5学年で学習した米飯とみそ汁を中心とした献立の立て方をもとに、バランスのよい献立を考え、調理実習をする。 ・家族のための1食分の献立を工夫する。 ・新鮮な野菜の選び方や加工食品の買物の仕方を工夫する。 ※太枠内：「4 題材の計画と一単位時間の展開例」(編P132)参照 	<ul style="list-style-type: none"> ・第5学年の献立学習や栄養の学習を生かし、いろいろな食品を組み合わせたり、体に必要な栄養素の働きを考えたりしながら、1食分の食事の献立が工夫できるようにする。【3(2/3)】 ・じゃがいもや加工食品を使った調理カードなどを準備する。 ・家庭実践アドバイザー(保護者ボランティア)のアドバイスを受けて自分の立てた献立を振り返り、決定する機会を設ける。 ・家族との食事を囲んでの団らんの大切さに気付かせる。 ・目的に合った品質のよい物を無駄なく購入する方法について考えられるよう模擬買物体験を行う。
7	やってみよう! 家庭の仕事夏休み編2 (2時間) ○夏休み実せん計画を立てよう ① ○夏休みチャレンジ発表会 ①	A(1)ア B(2) ア(ア)	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習からできるようになったことを振り返り、夏休みに行く家族のための1食分の食事作りの実践計画を立てる。 ・学習を生かし、夏休みに向けて家族と協力して家庭での実践計画を立てる。 ・実践したことを図や表や画像にまとめ、ワークショップ形式で発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆夏休み中に実践したことをワークショップ形式で行うことを伝え、実践報告レポートを夏季休業中に取り組みさせる。 ☆お互いの実践のよさを認め合い、アドバイスし合うことで、さらによりよい実践ができるようにする。【3(2/3)】 ・児童一人一人の家庭環境に十分配慮する。
9	「おすすめします!」 快適な生活 (16時間) ○快適な衣服の着方を考えよう ⑤ ○「気持ちいい!」快適な衣服の手入れ ⑥	B(4) ア(ア) B(4) ア(イ)イ C(2) アイ	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察を通して衣服の主な働きを理解したり、生活を振り返ったりして快適な着方を考える。 ・環境に配慮した衣服の手入れの方法や必要性について観察、実験、実習を通して知る。 ・環境に配慮し、水や洗剤の量を考え、工夫して手洗いをを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・快適な衣服の着方を家庭での着替えや衣服の選び方などから取材をし、日常生活における衣服の着方と関連させる。 ・夏と冬の衣服を比較したり実験したりして実感を伴った理解ができるようにする。 ・家族や自分が行っている衣服の手入れを調べ、話し合う。 ・体育着や靴下などの身近な物を洗濯し、手洗いと道具を使った場合の汚れの落ち方の違いなどについて比較し発表し合う。 【3(2/3)】
10	○工夫しよう快適な住まい方 ⑤	B(6) ア(ア) B(6)イ C(2) アイ	<ul style="list-style-type: none"> ・快適な住まい方の工夫をするために、住まいの主な動きや季節の変化に合わせた住まい方を理解し、自然を生かした快適な住まい方の工夫を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「快適な住まい方」をキーワードに、季節の変化に合わせた住まい方の大切さを家族の生活と関連させて理解を深めさせる。また、日本の生活文化や昔からの生活の知恵についても気付かせる。 【3(2/3)】 ・主として暑さ・寒さ、通風・換気、採光及び音を取り上げる。
11	作ろう心をこめて生活を豊かにするおくり物 (7時間)	B(5)ア (ア)イ イ	<ul style="list-style-type: none"> ・手縫いやミシン縫いで生活を豊かにする物を必要な材料や手順を考え製作する。 (袋物の製作) ・製作した物を見直し、改善点を考え、生活にさらに生かす方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を豊かにする物にはどんなものがあるのかを家族にインタビューし、製作をする。 ・不織布での試し作りなど、ゆとりや縫いしろの必要性を理解させる。 ・冬休みの課題として、「家族や地域の人々と交流したり、協力したりするために自分にできることは何があるのか。」を設定し、3学期の交流会につなげるようにする。
12	よりよい生活を目指して (6時間) ○生活課題を見付け解決しよう ② ○感謝の気持ちを表す交流会の計画を立てよう ① ○作ろう心をこめておくり物 ② ○交流会を開こう (交流会の準備・実施は他教科等) ○交流会をふり返って ①	A(4) ア B(5)ア (ア)イ A(4)ア A(3)イ	<ul style="list-style-type: none"> ・第5学年からの学習を振り返り、できるようになったことをもとに生活課題を見付ける。 ・生活を見つめる中で、お世話になった地域の方々に目を向け、感謝の気持ちを表す交流会の計画を考える。 ・手縫いやミシン縫いで家族や地域の方々へ生活を豊かにする物を製作する。 (カード入れやティッシュ入れなど短時間でできるもの) ・地域の方を招いての交流会の準備を行う。 ・交流会を実施する。 ・交流会を実施しての振り返りを行う。 ・交流会を実施して、振り返りを行う。各自の生活課題の家庭実践を紹介し合い、振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆生活課題を見付けるために、今まで学習してきた実践カードや振り返りなどに書いたものをもとに、もっとやりたいことや調べたいこと、疑問に思ったことなどを自分の家庭生活を見つめ直す。加えて、地域との関わりからも考えられるようにする。そこから学校応援団や地域の高齢者への感謝の気持ちを表すための交流会を、学校行事「感謝の会」と合わせて計画・実施する。 【3(2/3)】 ・手紙やメッセージカードを添え、感謝の気持ちを伝える等の工夫をする。 ・他教科や他領域の連携も考えて交流会を設定するようにする。 (交流会→総合的な学習の時間 交流会準備→学級活動) ☆お世話になった地域の方々や縦割り活動でペアとなった低学年の児童に感謝の気持ちを表す交流の場を設定する。 【3(4)】 ☆実践報告を行い互いの取組のよさを認め合い、アドバイスし合あって今後家庭や地域での実践に生かせるようにする。
1	ふり返ろう家庭科2年間、生かそうこれからの家庭生活 (1時間)	A(1)ア	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年間の学習で、できるようになったことを振り返り、家族からの「ありがとう」のメッセージを読み、今後できるようにしたいことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆「協力・協働」の視点から家族や地域の方からの手紙を用意することで、自分の生活が家族や地域の方々によって支えられていることを実感させる。 ☆第5学年の最初に立てた目標を達成できたかを振り返り、自己の成長に気付かせ、中学校での技術・家庭科の学習に目を向けさせる。

4 題材の計画と一単位時間の展開例

2学年間を見通した指導計画（編 P131）第6学年 1食分の食事を作ってみよう 題材の計画（13時間扱い）

過程	時間	○ねらい ・学習活動 ☆他教科との関連	
みづめる	1	○自らの食生活を「健康な食生活」で振り返り、食べることの大切さを理解する。 ・これまでの調理実習で作った料理を栄養面から分類する。 ・食べることについて考え、和食の効果を知る。 ☆道徳	B (2) ア (ア)
さぐる 実践	4	○ゆでる調理方法を学習し、簡単なおかずを作ることができる。 ・じゃがいもをゆでることを通して、ゆでることを実感できるようにする ・ゆでたじゃがいもで粉ふきいもを作り、簡単な味付けをする。 ・これまでの学習した調理方法（いためる）と今回学習したゆでる調理方法を組み合わせて副菜を作ることができることを理解し、調理実習に生かすことができるようにする。	B (2) ア (イ) (ウ) (エ)
	3	○料理を組み合わせることの効果を考え、家族のための1食分の献立を作成する。 ・栄養のバランスや献立作成のポイントを考えて米飯とみそ汁を中心とした1食分の献立を考える。 ○自分が考えた米飯とみそ汁を中心とした1食分の献立を見直す。 ○1食分の献立の調理計画を立てる。 ・調理計画を考え、調理の仕方を工夫する	B (3) ア (イ) (ウ) C (1) (イ)
	2	○1食分の献立の調理実習をする。（作った献立からグループで1つの献立を選び実習する。またはおかずのみとして、自分の献立の調理を行う。）	B (2) ア (ア) (イ) (ウ) (エ) B (2) イ
深め	本時1	○家族のための1食分の献立と調理計画を工夫する。 ・実習をもとに改善し、学校栄養士（T2）や家庭実践アドバイザー（保護者ボランティア）のアドバイスを受けて献立と調理計画を決定する。	B (3) イ
る	1	○目的に合った品質のよい物を無駄なく購入する方法を工夫する。 ・1食分の献立を家庭で実践するために買い物計画を立てる。	C (1) イ
いかす	1	○家族の大切さに気付き、家族の健康について協力できるようにする。 ・家族と一緒に食べる楽しさを実感できるよう、食生活の工夫を考える。 ・家庭実践の報告会を開く。	B (3) イ A (3) ア (ア)

本時の展開例

○目標

- ・自分が考えた家族に喜んでもらえる献立と調理計画を見直して、完成させる。〈創意工夫〉

時間	学習活動	・教師の働きかけ (T1:授業者 T2:学校栄養士) ◇ 評価	資料
2	1 本時の学習課題を確認し、解決の見通しをもつ。	・T1 前時から各自で考えてきた家族のための1食分の献立を完成させることを確認する。	献立を考えたワークシート (前時の分)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">家族のための献立と調理計画を完成させよう</div>			
3	2 班内で発表する準備をする。	・T1 班内での発表の仕方、発表内容（「家族のため」「献立作成のポイント」等）についてアドバイスをすることを確認させる。	発表用ワークシート 注意事項を示した掲示物 付箋紙
20	3 班内で発表し、アドバイスし合う。(学び合い)	・T1 発表、質問、アドバイスを時間で区切って、班ごとに進めさせる。 ・T1 アドバイスは付箋紙に書き、発表者に渡すようにさせる。 ・献立作成のポイントを確認し、そのポイントでお互いにアドバイスし合うよう助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">ポイント</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> 栄養のバランス 家族の好み 季節のもの 地域の特産 色どり 環境（材料を薄く切る、片付け方等） 健康 </div>	
13	4 自分の献立と調理計画を見直す。	・T1 付箋紙のアドバイスをよく読んで、見直しをして、必要に応じて修正させる。 ・T1 調理計画の見直しが不十分な児童に助言する。 ・T2 栄養バランスについて見直しが不十分な児童に助言する。 ・家庭実践アドバイザー（保護者ボランティア）には家族に喜ばれる具体的なアドバイスをしてもらう。	掲示資料 ・切り方 ・メニューカード ・栄養表 ・季節の食材カレンダー
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">◇家族のための献立について、もう一度見直したり、班員のアドバイスを生かしたりしてよりよいものになるよう工夫している。〈創意工夫〉（ワークシート・行動観察）</div>			
5	5 よりよくした献立を発表する。	・T1 アドバイス等によってよりよく改善した献立（1～2点）を全体に発表させて、共有させる。 ・T2 発表した献立について、健康の視点で考えている栄養のバランスのよい献立について紹介する。	実物投影機
2	6 本時の学習を振り返り、次時以降の見通しをもつ。	・T1 出来上がった1食分の献立をもとに、必要な材料の買い物の計画を立ててから、休日等に家庭で調理して家族から評価をもらい、レポートを作り、報告会をすることを知らせる。	

5 指導項目・事項チェック表

年間指導計画をチェックしているものです。これを作成して、漏れがないか確認してください。

内容 項目 事項 題材名	A				B												C				時間 数		
	(1)		(2)		(3)		(4)		(1)				(2)				(1)		(2)				
	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ			
はじめよう！「家庭科」 見直そう「家庭生活」																						2	
見直そう家庭生活	○																					(1)	
よりよくしたいな 2年後の家庭生活	○																					(1)	
目指そうかしこい消費者																				○	○	2	
協力しよう！家庭の仕事																						20	
家庭の仕事を調べ		○																				(2)	
生活時間を見直そう																						(3)	
目指そう快適な住まい 「整理・整とん 編」																				○		(3)	
豊かにしよう衣生活1 手ぬいにチャレンジ！																				○	○	(6)	
食事って何だろう？ ゆでる調理に挑戦！						○	○	○	○	○											○	(7)	
やってみよう！ 家庭の仕事夏休み編1 夏休み実せん計画を 立てよう	○																				○	(1)	
夏休みチャレンジ発表会	○																					(1)	
伝統的な日常食 ご飯とみそしるを作ろう																					○	16	
目指そう快適な住まい 「整理・整とん・そうじ編」																					○	5	
よりよくしよう家庭生活 冬休み実せん計画を立てよう 冬休みチャレンジ発表会	○																				○	4 (2) (2)	
豊かにしよう衣生活2 ミシンぬいにチャレンジ！																					○	10	
できるようになったよ 家庭の仕事	○																					1	
第5学年時間数	5	2		0	2	2															4	1	60
充実させよう家庭生活			○	○	○	○																3	
作ろう栄養を考えた食事 いためものに挑戦！																						20 (7)	
1食分の食事を作ってみよう			○																			(13)	
やってみよう！ 家庭の仕事夏休み編2 夏休み実せん計画を 立てよう	○																					2 (1)	
夏休みチャレンジ発表会	○																					(1)	
「おすすめします！」 快適な生活																						16	
快適な衣服の着方を考えよう 「気持ちいい」																					○	(5)	
快適な衣服の手入れ																					○	(6)	
工夫しよう快適な住まい方																					○	(5)	
作ろう心をこめて 生活を豊かにするおくり物																					○	7	
よりよい生活を目指して 生活課題を見付け解決しよう 感謝の気持ちを表す交流会の 計画を立てよう																						6 (2) (1)	
作ろう心をこめておくり物 交流会を開こう 交流会																					○	(2) (1)	
交流会をふり返って ふり返ろう家庭科2年間、 生かそうこれからの家庭生活	○																					1	
第6学年時間数	2	1		3.5	3	2															2	4	55
総時間数	7	3		3.5	5	4															6	5	115